

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

ひだまりの家

日付 平成 21年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験3年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

リビングルームの窓際のテーブルでせっせと編物をしている利用者が目についた。早速見せてもらう。市松模様のマフラーを編んでいる。ふふ～んと鼻歌交じりで慣れた手つきでペースは早く、お喋りも続く。夕方にはマフラーは完璧に仕上がっていた。「嫁いだ家は大家族だね、かまどに5つも6つも釜や鍋をかけていたんだよ」と話してくれる。横には、少し前に仕上げた膝かけがあり、「これを使いなさい。暖かいよ」と出してくれる。後で部屋へ招待され編物の作品を見せてもらった。「春になったら花壇の手入れが楽しみ」と言う眼鏡をかけた利用者。円が2つあるからか、その花壇は“眼鏡花壇”と呼ばれるらしい。ホームは「エ」の字型で建てられている。北棟と南棟を繋ぐところがリビングルームになっていて、どの部屋も日当たりが良い。それで「ひだまりの家」と名付けられたのかも知れない。リビングルームの両脇に花壇と菜園がある。この菜園も利用者の名をとった名前が付いている。じゃがいも、玉ねぎ、きゅうり、なす等色々な野菜が収穫できるそうだ。ただ、高齢化や症状が進み、以前のような鋤で耕す事は無理になり、植え付け、収穫、草抜き等その人のできる事をやってもらっている。それでも土に触れることは大きな喜び楽しみで、癒しとなる。理念である「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活」が実践できている。他にも静かに外を眺めている人、かぶりつきでテレビを見ている人、2人並んでソファに腰かけている人。それぞれが、ゆったりとした時間を共にし、安心とぬくもりの雰囲気を感じる。

管理者は、母体は県下トップクラスの認知症専門病院で経験を積んでいる。「認知症の人の話しをじっくり聞く」ことが認知症ケアにとって一番大切で、「自分の気持ちを聞いてくれた、自分のことを理解してくれた」と利用者が思ってくれたら利用者との強い信頼関係を築くことができる。

自宅から入所して来た利用者が入所後しばらくの間、突然ホームを飛び出す事もあったが、信頼関係のできた職員がそばに居て、その人の言葉や気持ちを理解するように寄り添ったり声かけして対応すると、ホームに戻るかと帰ってきたそうだ。私の気持ちはあの職員さんが全部分かっていてくれる事が一番と管理者は考えている。こんなことも管理者は職員全員とよく話し合っているそうだ。一人ひとりの気持ちに寄り添った会話に思わず私も顔がほころんでしまう。

認知症のことをしっかりと理解し、その高度な知識を持って専門的なグループホームの代表になって欲しいと願う。しかし、日々の生活に追われてなかなか思うように進まない、と管理者は言う。利用者との過ごし方も模索して、一人ひとりのフェイスシートを作成中である。似顔絵のトップページから始まり、病歴、症状の変化はもちろん、利用者の歴史を知るために年代ごとに区分して細かく記述している。誰が見ても分かり易い。職員の知恵を結集したフェイスシートに完成するのが待ち遠しい。

特に改善の余地があると思われる点

管理者の性格や表情豊かさもあり、利用者との関係、職員との仲間意識も随分変わり、更に明るく元気のいいホームになった。日頃から一人ひとりの利用者として向き合っており、一日10～15分コミュニケーションをしてあげて欲しい。

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念はこのホームの生活とケアの道標となっているので変更の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：5つの生活に対する目標がある。要約すると、安心とぬくもりを感じる生活、楽しさと喜びを味わえる生活、その人らしい生活、心身とも拘束されない生活、社会とつながりのある生活、この5つの生活ができると素晴らしい人生が送れる。これは普通の人の生活でも同じである。</p> <p>管理者が代わって1年余りが経ち、今回訪問してみると、ホームの中が大変明るく、利用者が元気になったなあと一目で分かった。管理者はこのホームの立ち上げ時にも関わっていたので、復帰ともなるうが、じっくり腰を落着けて職員と共にケア及びサービスの業務に当たって、先ず信頼関係が確保できたと云える。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：敷地と建物、そして周辺の環境についてのハード面について改善するところはない。これから、この空間の中で、利用者・家族・病院関係者・地域の人々特に子供達等の人々が、この地域全体の空間を活用して交流でき、助け合って生活できるソフト面がどんどん活性化していくと良い。</p> <p>2、全体的に見て…：ホーム内を見ていると、表情豊かになっており、お話しをする時の笑顔に吸い込まれそうになる。運営推進会議で家族の発表「うちのおばあちゃんも子供を前になると表情が違う。昔はそんなことはなかったけど、最近ひだまりにお世話になってからこういう表情が見られ始めた。うちの孫も大きいおばあちゃんと言って会いに来るいい関係、当たり前の子供達と交流が出来るようになっていいですね」とある。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネジメントの各介護項目について改善するところはない。一つひとつ重点的な項目をより改良に積み重ねていく。</p> <p>2、全体的に見て…：グループホームのケアに関する業務が介護計画が柱となり、毎日の各種記録が、利用者の生活とリスクの変化の道標と気持を表わし、職員のケアの証しとなって、計画と記録が職員の業務に浸透しているというのが理想の姿である。このグループホームの介護計画と記録を見ると、プロセスや様式そして使っている内容を見ると、この理想に近い感じがする。利用者の持っている課題が、医療との兼ね合いを持ちながら、人間の具体的な部位や行動に対する問題点にしぼられている。そしてその援助内容が具体的な内容になっている。又記録の記述でも、問題のあるところを詳しく記述しているところも分かり易い。これらをもう少し集中的に絞っていくと良いシステムになるなあと先行を期待したい。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営体制、地域との関係について着々と進めているので改善するところはない。このホームとしては、母体である認知症専門病院と隣接しているので、地域との関わりは、母体の病院と一緒にしていくことが望ましい。</p> <p>2、全体的に見て…：よくグループホームの特長として、家庭的、第二の家庭という表現をしているが、グループホームは利用者職員が仲良く、楽しい生活をしてもらえるように、特に利用者にとって、「ここで生活することが一番楽しい居場所」と云ってもらえる所をつくるのが、グループホームのプロの介護職だと思っている。</p> <p>つまり9人の利用者は個々の社会人であり、ホームはその人が最も楽しみ信頼し合えるコミュニティづくりであるのではないかと考える。その環境が住み慣れた街とか家庭的など云っているのだと思う。このホームにもこんな仲間づくりができいくのだと思う。</p>		